

私は母校の高等学校で教育実習を行いました。振りかえってみると、本当にあっという間に時間が過ぎた楽しい教育実習でした。

私が教育実習を行うにあたり、たくさんの方々にお世話になりました。関わってくださった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。正直なところ、最初はうまく授業できるのかという心配や、凄くしんどい2週間になるのではないか、実習生も私一人だったので一人で乗り越えられるのか、などの不安もたくさんありました。いざ始まってみると、初日から私に興味を示してくれて、話しかけてくれたり挨拶をしてくれる生徒が沢山いました。それだけでも心が温かくなりました。

最初の方は授業見学をさせていただき、いろいろな科目、また同じ科目でも違う先生の授業をたくさん見させていただきました。先生によって授業の進め方などが大きく異なり、様々な指導方法を学ばせていただきました。例えば、パワーポイントを中心に授業する先生、書画カメラを使って生徒と同じものを写しメモなどを書き込みながら説明する先生、ハキハキとした声で喋り生徒の授業参加を中心に行う先生、グループワークで生徒の活動を中心に行う先生など様々な授業のやり方を知ることができました。それらを参考にして私に合う授業形態を考えました。私は「簿記」の授業を担当しましたが、パワーポイントを中心に授業を展開し、書画カメラを使用し口頭説明を加えながら、できるだけ視覚的聴覚的で生徒がわかりやすい授業を追求しました。先生方には、作成した指導案や教材（主にパワーポイント）をチェックしていただき、たくさんアドバイスをさせていただきました。生徒も真面目に聞いてくれ、授業が終わってから「わかりやすかったよ」「先生よかったよ」と話しかけてくれることがとてもやりがいになりました。

教壇実習の回数を重ねると時間感覚や授業の進め方や自分のやり方が身についてきて、自信を持って生徒に教えることができました。机間指導も多く取り入れ、そこでもたくさんの生徒とコミュニケーションをとることができました。教壇実習を実施するたびに先生方からご指導いただき、1つ1つ改善しながら授業を行ったため、研究授業ではたくさんの先生方からよかったと褒めていただき、「先生向いているよ」などと言っていただきました。

最終日には文化祭の準備を生徒と一緒に行いました。たくさんの生徒と色々な話をし、関わりが深くなっているところで教育実習が終了してしまうのは寂しかったですが、人生において普段は体験できないような濃い2週間を過ごさせていただきました。この経験は必ず今後の人生の糧になると思います。

本当に楽しい2週間で、一度もしんどいと思う瞬間はありませんでした。それは母校の温かさ、先生方からの気遣い、生徒の優しさ、大学側のサポートなど多くの方の支えがあったからこそものだと思います。感謝の気持ちを持って、この経験を必ずどんな形であっても、今後の人生に活かしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。